



第24号

2007.3



社団法人 千葉県緑化推進委員会

募金活動にも新しい波が生まれています

緑の募金法が制定され、はや10年が経過。緑の募金は第2ステージを迎えています。

森林に代表されるみどりは、きれいな空気、おいしい水、心身の癒しなど、私たちに限りない恩恵を与えてくれます。特に近年では地球温暖化防止の面で改めてみどりの力に大きな期待が寄せられていることは、皆様もご存じのとおりです。

このかけがえのないみどりを、国民の一人ひとりが参加して支えようとするのが、当委員会を含む全国の緑化推進委員会が一貫して推進してきた「国民参加の森林づくり運動」です。森林づくりと言ってもさまざまな参加の方法がありますが、その中でも最も身近なものが「緑の募金」ではないでしょうか。長年、みどりへの想いを伝える募金として多くのご支援を賜ってきました。

近年、特に企業や団体、学校などから、環境分野への社会的貢献として「緑の募金運動」に参加してみたいというお問い合わせを大変多くいただきます。これらの特徴として「企業活動等に関連づけたスタイルによる募金運動への参加」が挙げられます。当委員会ではそれぞれのお考えにマッチした実施方法をご相談・提案しながら、緑の募金を通したみどりづくりの輪をもっともっと広げていきたいと考えています。

そこで今号では、そうした新しい取り組みのいくつかををご紹介します。



飲料販売機で募金??

●(株)ダイドービバレッジ・イーストほか

ドリンクの自動販売機で緑の募金運動に協力？ どういうことなのかと思われるでしょう。これは自販機による売上げ金の一部が、緑の募金に寄附されるというものです。ジュースなどの飲料は、森林から供給された水で作られます。また自販機に必要な電力を作る際には二酸化炭素が排出されます。二酸化炭素を吸収し、きれいな水を育む森林に少しでも恩返しを。そんな思いを具現化した協力方法です。具体的には飲料販売会社と自販機の設置者が一定の取り決めを行い、募金に寄附されます。その結果、飲料の購入者もその自販機からドリンクを買うことで自動的に募金に協力される事になるとい

う、何ともユニークな仕組みです。

職場で募金を呼びかけることなく、スマートに参加できることから、事業所等はこの自販機を導入するというスタイルも定着してきています。



募金箱を設置。 募金の受け付け窓口が拡大。

- 千葉出光会(出光興産(株)千葉支店)
- 千葉トヨペット(株)
- 千葉信用金庫ほか

緑の募金に協力したいが、どこでどのように募金すればよいのか？そんなご質問がよく寄せられます。お買い物の際に、おつりをレジ脇に設置された募金箱にサッと寄附する。そんな経験がありませんか？募金箱は募金の受け付け窓口なのです。店舗や営業支店など募金箱を数多く設置くださることは、言い換えれば「窓口業務」を引き受けていただくことになります。運動そのものの拡大性も秘めたご協力の一つです。

たとえば千葉出光会では県内の210のサービスステーション参加のもと募金箱の設置、ポスターの掲示等を展開されています。



キャンペーンや商品とタイアップ。

- 大多喜ガス(株)
- (株) コージーライフ研究所(ティンバーヤード)ほか

特定商品の売上げの一部、もしくはキャンペーン期間中の売り上げの一部を緑の募金にご寄附いただくなどの方法です。ショッピングカード

とのタイアップもあります。

たとえば大多喜ガスでは、「あったかフェア」期間中、暖房器具販売1台につき一定額の募金額を設定され、総販売数に応じた募金を寄附されるご協力をいただきました。緑の募金シンボルマークを活用いただくことなどで、高いPR効果とともに展開していただいています。



その他、企業活動の特徴を活かしたオリジナル例。

- リコー販売(株) 千葉事業本部ほか

ご紹介するリコー販売は、「チャリティーパソコンスクール」を開催されています。日ごろから環境保全に取り組まれている同社は、その参加費を緑の募金にご寄附されました。

その他にもチャリティゴルフコンペやセミナーなどの企画によるご協力例もあります。

いかがですか？紙面の都合上、一部のご紹介しかできませんが、こうした寄附者(協力者)のアイデアによって、独自なスタイルでのご協力が増えていくことは、とてもうれしいものです。当委員会は「実際にどのようにしたらいいのか?」、「わが社、わが職場ではどんなことができるでしょうか?」といったご相談に、いつでも応じています。打ち合わせのうえ、必ずピッタリな方法をご提案します。どうぞお気軽にご連絡ください。

なお、当委員会は特定公益増進法人の認定を受けています。よって当委員会が取り扱う「緑の募金」に寄附をされた場合、所得税・法人税の優遇措置が受けられます。

番外編。

学生による街頭募金



専修大学松戸高等学校はJ R松戸駅前で、千葉瑞穂みどりの少年団はJ R千葉駅前で街頭募金を実施。また千葉商科大学附属高等学校は、「環境と調和」をテーマにした学園祭で模擬店を企画し、その売上げをご寄附くださいました。緑の募金運動そのものに参加し、広く呼びかけたい。とてもうれしいことにそんな学生たちからの熱い思いが近年、増加傾向にあります。

これらの皆さんが、安心して募金活動(呼びかけ)に携われるよう、当委員会では「誰がどこでどのように募金活動を行っている」ということを記した、いわば「証明書」を発行しています。



さて、平成19年度の緑の募金のキャッチフレーズは「森林(もり)に、チャージ」。緑の募金は、私たちのそれぞれの思いをパワーに変えて森林(みどり)にチャージします。平成19年度緑の募金につきましても、多方面のご協力をお願いいたします！

市町村の緑化活動

千葉県内の各市町村の緑化活動が盛んです。

その中でも今、活動真っ最中の2つ取り組みをご紹介します。

動き出しました、千葉市の「^{ま ち や ま}街山」活用



↑平成18年11月にオープンした「小倉自然の森」。「市民緑地制度」を活用した千葉市初の市民緑地である

街山？聞きなれない言葉ですね。それもそのはず。街山というのは、市街地の樹林地をさす千葉市独自の言葉なのだそうです。農村地域にある里山と区別するために造られました。その「街山づくり」が本格的に動き出しました。

千葉市は昭和40年代から都市緑地の保全に取り組んできました。そ

して平成18年、「市民緑地制度」を導入した取り組みが開始されました。これは300平方m以上の良好な樹林地を持つ地権者と千葉市が契約し、市が市民緑地として整備し、維持管理を地元住民などの市民が行うという三者協働の事業です。市はまず制度導入へ向けて、モデル事業を立ち上げました。モデルになったのは若葉区小倉町の樹林地です。閑静な住宅地の中にある美しい保存樹林でしたが、ゴミの不法投棄が後を絶たない状況でした。「なんとか孫の代まで残したい」と願う地権者、「自分にできることがあるなら」との住民、そして「このモデル事業を成功させたい」と願う千葉市。三者でのワークショップが何度も何度も行われました。そして平成18年11月、「市民緑地制度」を活用した市内初の市民緑地「小倉自然の森」がオープンしたのです。

かつてゴミの不法投棄に悩まされていた場所とは想像できないほど、現在の「小倉自然の森」はのどかです。約5,800平方mのクヌギやコナラの雑木林は散歩道が整備され、ベンチも置かれています。掃除や草刈などの日常的な維持管理は、周辺7自治会の有志約30人による「小倉自然の森を育てる会」が行っています。

この制度の活用によって、地権者にとっては固定資産税が免除され、市にとっては維持管理費が節減でき、住民にとっては身近な自然環境を愛着をもって保全できるという、三者三様のメリットが期待できます。今年4月には、2ヵ所目となる市民緑地が、緑区おゆみ野にオープンします。また市では今後、地権者や市民の協力を得て、すでに市民の森として親しまれている緑地も順次この制度に移行していく方針です。

千葉市のもう一つの取り組みが「子どもたちの森」づくりです。特色のある緑地づくりを。自分の責任で自由に遊べる森づくりを。そんな考えからスタートしたこの事業。木に登ったり、虫を見つけたり、川で魚を捕まえたり、焚き火をして焼き芋を食べたり…。ほんのひと昔前まではあたりまえの遊びだったのが、いつの間になくなっていました。危険だから？場所がないから？だったら、場所はつくりましょう。でも、冒険は自分の責任ですものだからね！

まずは平成9年度、「特色のある公園整備計画基本構想」を策定。これを受けて平成13年度からの新5か年計画では、若葉区源町に広さ約3haの「子どもたちの森」を計画しました。地権者、近隣3小学校、自治会、公募の市民によりワークショップを開催。そして平成19年4月、その計画地の中に「子どもたちの森公園」（面積3,000平方m）がグランドオープンすることになりました。運営を行うのは「自然遊びわかばの会」。「何をしたらいいかわからない」そんな子どもたちを導くプレーリーダーも週5日スタンバイします。

子どもの頃の遊びは、精神の成長に大きな影響を与えます。自分で工夫したり、他の人の遊びから学んだり…。運営団体というソフトづくりが一番の鍵となるこの事業。これからが楽しみです。



↑4月にオープンする「子どもたちの森公園」。子どもたちが自由に遊ぶことができる森である



←「小倉自然の森」の維持管理を行う「小倉自然の森を育てる会」の皆さん

第24回全国都市緑化ふなばしフェア 「おとぎの国の花フェスタinふなばし」

船橋市が、今まさに取り組んでいるのが「第24回全国都市緑化ふなばしフェア」です。全国都市緑化フェアは、国土交通省の提唱により、都市緑化意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及などを図るために、昭和58年から都道府県、政令市などが財団法人都市緑化基金とともに主催者となり、全国各地で開催されているものです。

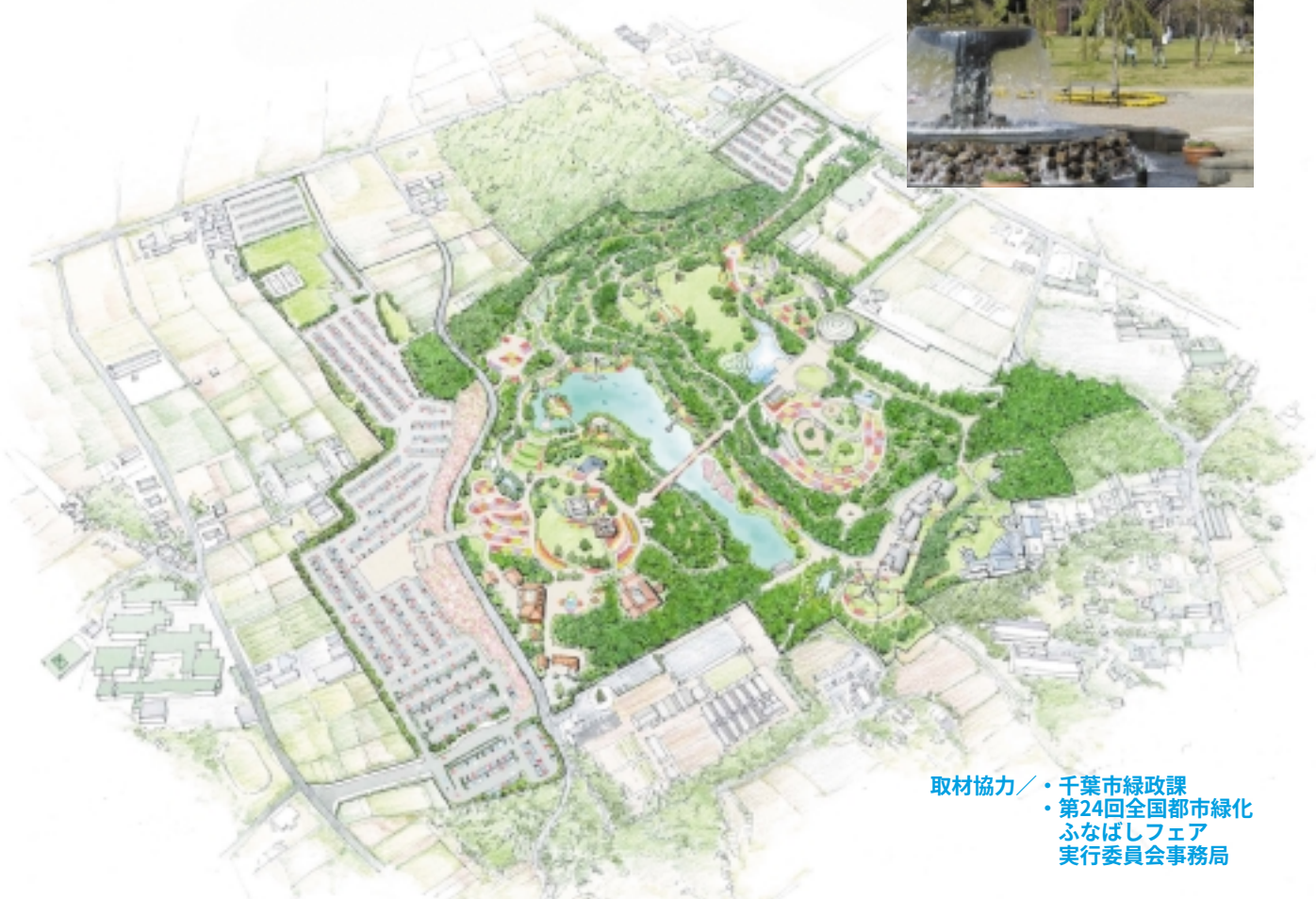
船橋市は平成19年4月に市制施行70周年を迎えます。そこで記念事業として、船橋市アンデルセン公園をメイン会場に「第24回全国都市緑化ふなばしフェア」を開催することにしました。

開催期間は10月2日～11月4日。テーマは「子どもたちの幸福な未来～アンデルセンから、世界の子どもたちへの贈りもの～」。彩り豊かなたくさんの花と緑にあふれるアンデルセン公園で、緑や自然の大切さを肌で感じてみませんか？ フェア開催時には、現在拡張中の「里山の水辺」も加わり、27.1haとなるアンデルセン公園。「ファンタジー＜ゆめ・希望＞」「アドベンチャー＜健康・遊び＞」「フューチャー＜未来のまちづくり＞」「フレンドリー＜交流・愛＞」をテーマにした4つのゾーンに分けられ、各種イベント、アトリエプログラムなどが行われるほか、さまざまなガーデンデザインが提案されます。

愛情あふれる100万本の花で飾られるアンデルセン公園が、この秋、日本中の注目の的になることは間違いありません。



この秋、「第24回全国都市緑化ふなばしフェア」が行われる船橋市アンデルセン公園とその全体図（下図）



取材協力／・千葉市緑政課
・第24回全国都市緑化
ふなばしフェア
実行委員会事務局

緑

自

慢

国土緑化推進機構を中心に、5年に1度、全国学校林現況調査が行われます。本年度はその実施年度でした。県内の全学校にご協力をいただき実施したその調査結果の中で、ひときわ学校林の活用積極的に取り組んでいる学校が数校ありました。そ一つが今回ご紹介するいすみ市立千町小学校です。

千町小学校は旧夷隅町の中心部から少し離れた住宅地にあります。学校創立は明治7年、本年全校児童数は128名、教職員は15名です。学校に隣接する森が千葉県から「教育の森」として指定されたのが14年前のことでした。森の所有者の方々からも快諾を得ることができ、その後は雑木の伐採、竹林の整備、下草刈りなどの作業に汗を流す日々だったそうです。今では子どもたちの好奇心をくすぐり、想像力を育てる大切な場所になっています。

その名も「トトロの森」。森には子どもたちの描いた看板があり、この森をどんなに愛しているかが伝わってきます。

この「トトロの森」の東側には、沼を中心とした遊歩道の整備された「いすみ環境と文化の里 小動物の広場」が広がっています。そのため、0.3haの

「トトロの森」とこの「いすみ環境と文化の里 小動物の広場」を合わせた、広大な自然が学校林活動の舞台となっています。

活動内容その一は「自然探検」。毎月1回、午前8時から行っているプログラムで、全学年を縦割りにしてグループごとに活動。高学年は低学年を率いることで、思いやり

の精神や協調性を養い、同時に体力づくりにもなっているとのこと。また、この探検をきっかけにして、放課後も子どもたちは足繁く学校林に通っているそうです。「一日に最高20匹もクワガタやカブトムシを捕まえてくることがあります。鳥や虫の名前もたくさん知っていますよ、うちの子どもたちは」と橋口満校長先生。

活動内容その二は「海山交流」。海のそばにある勝浦市立郁文小学校と、森に恵まれている千町小学校の児童が交流するというもので、本年度は千町小学校の「トトロの森」でタケノコ狩りを行い、掘りたてのタケノコ汁をいただいたそうです。「この大釜いっぱい、全部平らげますからね」とうれしそうに話す鈴木幸代教頭先生。これぞ食育というものですね。千町小が郁文小を訪問する時には、海草や貝などを採取。すでに10年以上続いているプログラムで、当時の校長先生方が、児童たちに山の良さ、海の良さを相互にわかってもらおうと始めたものだそうです。

このほかにも「ネイチャークラブ」活動など、いろいろな活動を行っているのですが、この広い活動エリアを安全に利用するには、先生方やPTAの皆さんの地道な協力が必要です。児童数の減少で先生も少なくなっているため、管理はやはり大変。空き時間、放課後にはせっせと下草を刈っているそうです。「自然と接していると感性が豊かになります。感性が豊かであれば、たくさんの美を感じ取ることができ、人生が豊かになります。しかし自然に恵まれていても、その良さがわからないということもあります。自然探検や海山交流、みどりの少年団活動などが、子どもたちの感性を育み、自然の良さを知るきっかけになっているのではないのでしょうか」と校長先生。千町小を含む、旧夷隅町の3小学校が構成して、いすみ市みどりの少年団としても活動しているのです。自然の中で育った子どもたちの元気な明るい声が今日も校舎に響きます。



↑校長先生が描いた細密画。すべて学校林の中で生きているものばかり



↑学校林の竹林で行われた「海山交流」。初めは遠慮気味だった郁文小の子どもたちもすぐに夢中になり、30分で5台の輪車がタケノコで満杯になった

オススメします。この本



「森の休日3
調べて楽しむ 葉っぱ博物館」
写真／亀田龍吉
文／多田多恵子

春なのに紅葉？葉っぱのお化粧 トゲトゲしいにも意味がある！？ などなど、思わず引き込まれてしまうユーモアいっぱいのタイトルと、これでもかというくらいたくさんの美しい葉っぱの写真。まさに博物館にいたようなわくわく感が。そしてわかる深い意味…。葉っぱには、植物たちの生きるすが凝縮されているということ。

山と溪谷社 1,600円（税別）



「古事の森」
語り／立松和平
作画／横松桃子

日本の文化は木によって支えられている。しかも伝統文化である神社仏閣、橋や城郭を維持したり建築するためには直径1mを超える木が必要だ。しかしほとんどないのが現状。そこで2002年、京都の鞍馬山に古事の森が作られることに。この本はその時の様子を立松氏が語り口調で伝えたもので、漢字にはルビがふられているので小学生でも読むことができる。

かんき出版 1,000円（税別）

上記の本、「葉っぱ博物館」「古事の森」を各1名の方にプレゼントします。ハガキに、希望する本、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係へご応募ください。また、グリーンえっせんずをここでご覧になったか、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページ右下参照。締め切りは7月末日（当日消印有効）。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

企業の中の緑

千葉信用金庫
(千葉市)

千葉市の中心街、千葉銀座通りに本店を構える千葉信用金庫の創業は大正13年。有限責任千葉信用組合として発足し、平成10年には両総信用金庫と、また平成14年には木更津信用金庫、成田信用金庫と合併し、現在(平成18年3月)では千葉県内に49店舗を有する、職員数849名を誇る大きな企業となりました。

平成16年に創立80周年を迎え、記念事業として、当委員会の「国土緑化運動ポスター原画コンクール」に協賛いただくこととなりました。そのきっかけは葉っぱの形の千葉信金マーク。「千」にはたくさんという意味があることから、たくさんの葉によって「千葉」を表現したそうです。カラーは緑。もともと緑への関心は強かったのでしょう。また80周年にあたり「環境宣言」も行いました。環境問題への取り組みを、背伸びせず、自分たちのペースで実践しようではないかと。緑の葉のシンボルマークと環境宣言が、当委員会との関係を作ってくれたのです。「未来の緑を考えた場合、子どもたちの緑化意識を高めていくことはとても大切なことだと思います。緑化運動ポスターを描くことで、子どもたちには計り知れない良い影響があるはずです。全国6万人以上の子どものうち芽生える緑化への意識。これは大きな意義のある協賛だと考えています」とおっしゃるお客様サービス室長の村松さん。(注1)

このコンクールへの協賛とともに、緑の募金運動期間中は、全店舗の店頭で募金箱を設置しました。誰でも気軽に募金できる環境を整え、職員の皆さんも積極的に募金したとのこと。しかもただ置き放しにするのでは気持ちが伝わらないということで、春と秋の募金期間中は、全職員が緑の羽根をユニフォームに着けて、募金期間だということを周囲にもアピールしたそうです。こうした委員会への賛助は、当初は80周年の年だけ行おう計画でした。ところが「もっと続けていきたい」との声が高まり、ポスター原画コンクールへの協賛と募金箱の設置は現在も継続中。それどころか、実はスパイラルアップしているのです。

それがポスター原画コンクール特別賞受賞12作品の展示です。子どもたちのすばらしい作品は、これまで

も県庁や県立公園などの会場で展示してきましたが、平成18年には千葉信金本店ロビーでも展示していただきました。これまで以上にたくさんの人々が鑑賞され、緑化運動の普及・啓発につながったことは言うまでもありません。「どのように展示すべきか悩みました。会議室のホワイトボードを利用しようということになったのですが、エレベーターに入らなくて。分解したり組み立てたり…。苦心の末でしたから、展示に目を細めるお客様を見るとうれしかったですね」。

「緑化運動に対する企業の参加方法はさまざまなスタイルがあると思います。私たちはより多くの皆さんに、緑の重要性やすばらしさが伝わることを念頭において取り組んでいます。たとえば、パンフレット類の色彩をみどり基調にしたり、包装紙のデザインに花や緑の図柄を取り入れるなどして、潜在的な意識に訴えかけるよう努めたりもしていますよ」。

最後に、直接緑化運動とは関係ありませんが、この広報誌「グリーンえっせんす」は県内の小・中・高等学校に配布されていますので、ここでぜひ紹介したい千葉信金の新しい活動があります。それは県教育委員会後援の「こども110番の店」活動です。子どもが巻き込まれる凶悪な犯罪が全国で多発していることを受け、本支店や外回りの営業担当者が、子どもの安全確保に協力する取り組みを始めたのです。全店舗と営業用バイクに写真のステッカーを貼り、声掛けや安全な場所への誘導を行い、子どもたちを犯罪から守るものです。次世代を考えたいろいろな活動…。千葉信金さんは温かいですね。



注1 このコンクールは全国規模で実施していて全国で約6万6,000点の応募があり、そのうち千葉県の応募は約1万点と多い。

↑本店ロビーに展示されたポスター原画コンクール特別賞受賞作品。たくさんの人々が鑑賞することができた

(社)国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくに・にっぽん」運動。森林を守り育て、その恵みを活かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人100人」を選定。今年、千葉県では2人の方が名手・名人に選ばれました。

竹内平一郎さん(市川市・82歳)
＜森づくり部門＞

都市近郊林を守ろうと「魅せる山づくり」を主眼に景観重視の森林づくりを展開する一方、森林と遊び親しんでもらおうと森林空間を活用したフィールドアスレチック施設を導入。さらに山林の高度利用として、林床を利用したワラビ、ミョウガ、フキノなどの栽培も行っている。早期に林業経営から森林経営へと脱却し、都市近郊林のあるべき姿を確立している。

古関幹雄さん(市原市・66歳)
＜加工部門＞

祖父の代から、農業の副業として行ってきた炭焼きの経験が37年。氏の窯は、27年間も壊れることなく維持されており、定期的に炭を焼いてきたからこそのものであろう。また、森林ボランティアや地元地域を対象とした体験発表を行うなど、普及活動での貢献も大きい。

森の
名手・名人

緑の募金でふせごう地球温暖化！ 春季・緑の募金にご協力ください

平成19年度 緑の募金運動

■目標額3,500万円



3月1日から5月31日まで県内全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は当委員会、各市町村窓口、募金箱設置にご協力の企業・団体の事業所等で受け付けております。

県民の皆様の深いご理解と暖かいご支援をお願いいたします。



平成18年度の募金総額は、目標額を上回る35,977,702円に達しました。

お寄せいただいた募金は、みどりあふれるさわやかな環境づくりを目指し、学校や公園といった公共施設の緑化、緑化思想の普及啓発、緑の少年団の育成に代表される森林環境教育、また森林整備ボランティア活動の支援などに大きく役立てられました。

またその一部は世界規模での緑化運動や森林の整備にも役立てられています。

平成18年度公共施設等の 環境緑化事業を実施しました

(社)ゴルフの緑化促進協力会並びに県内協力ゴルフ場のご協力のもと、プレーヤーによる緑化協力金を原資に、市町村から希望が寄せられた下記5カ所の公共施設などに植樹を行いました。

旭市	海上コミュニティ運動公園	タブノキ22本
陸沢町	陸沢ダム	カワヅザクラ20本
長生村	大関堰	トウカエデほか86本
南房総市	市道名倉乙浜線	キンボウジュ55本
袖ヶ浦市	蔵波川岸公園	ハナミズキほか55本



あなたも参加しませんか？ 「国連環境計画(UNEP)10億本植樹キャンペーン」

ワンガリ・マータイさん(ノーベル平和賞受賞者)の提唱により、「国連環境計画(UNEP)10億本植樹キャンペーン」が2007年1月1日からスタートしています。

これは個人および団体(市民団体、企業、各

国政府、地方自治体、国連機関等)が幅広く植樹に参加することをUNEPのWebサイトで宣言することを呼び掛けるもので、2007年中に全世界で10億本の植樹を目指しています。森林の重要性を広く世界中に周知してもらうという意識啓発を行う目的で行われています。

インターネットを通じて気軽に参加できます。



国土緑化運動ポスター原画コンクール 展示会のお知らせ

平成18年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品の展示会を下記のとおり実施します。県内の小・中学生がみどりへの想いを表現してくれたすばらしい作品の数々をどうぞご覧ください。

本年度は応募数9,821点に達し、大変多くの子どもさんたちにご参加いただきました。また全国コンクールでも本県の推せん作品が入賞するなど極めて優秀な成績を修めています。

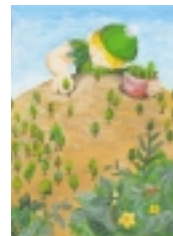
当コンクールはH19年度も実施します。たくさんのお作品をお待ちしております。

期間	場 所	展示作品
4/16～ 4/23	千葉市中央区市場町1-1 「千葉県庁19階県民展示コーナー」	●特別賞 ●特選の計36点
5/15～ 5/25	千葉市中央区中央2-4-1 千葉信用金庫 本店	●特別賞の 計12点
6/5～ 6/24	印西市多々羅田159 「県立北総花の丘公園花と緑の文化館内」	●特別賞●特選 ●入選の計72点
7/17～ 8/6	柏市柏の葉4-1 「県立柏の葉公園センター内」	●特別賞●特選 ●入選の計72点

*会場等の都合により展示期間等が変更になる場合もございますので、最新の情報は当委員会ホームページでご確認下さい。

表紙の絵

表紙の作品は平成18年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、中学校の部で千葉日報社賞を受賞した、浦安市立富岡中学校 3学年 島田つぐみさんの作品です。



グリーンえっせんす 第24号

2007年3月31日発行

発行／(社)千葉県緑化推進委員会

URL <http://www.c-green.or.jp/>

〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148

TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522

印刷／凸版印刷(株) TEL.043-350-5611